

NPO 緑の会

特定非営利
活動法人
NPO緑の会
取手市小文間
3838-1
TEL 0297-
72-8791

NPO緑の会

第9回通常総会を開催

組織の活性化 拡大発展をめざし
「Rプロジェクト」設置を決める

第9回通常総会は、5月31日(土)、取手市：かたらいの郷に於いて藤井取手市長、斉藤取手市会議員をご来賓に迎えて盛会裏に開催されました。



激励のご挨拶中の藤井取手市長



総会で挨拶する
恒川理事長

「生ごみ堆肥化事業」では、平成21年3月から相馬第3地区231世帯の生ごみ回収が始まったことにより総回収世帯数が1,307世帯に増加したこと、日本橋川や霞ヶ浦等の水質浄化活動などの活動報告があり、引き続きこれらの活動を継続していくことが確認されました。

また、NPO緑の会の更なる発展(生ごみ堆肥化事業の拡大、業容の拡大、組織の活性化など)を考えるためのプロジェクトチーム(Rプロジェクト)を置き、様々な問題点の克服、組織の活性化と拡大発展を目指す



熱き想いを講演する江部氏

していくことになりました。総会の議事終了後には、江部正紀氏(取手市教育委員、行政改革推進委員そしてNPO緑の会会員でもあります)から「今、私が考えていること」と題して講演が行われました。

江部氏は「日々輝塾」を主宰し、世界を変えるような大きな志と構想を持つ若者達、肝を決めて熱く輝いて行動する若者達を育て輩出するために活動し、また同塾を軸として志ある社会活動家同志、組織体、会社、役所、政治をつなぎ、和をつくり、ゆるく統合し、世界的なネットワークを構築して、世界を変えるための活動を続けています。

平成19年度事業報告

・非営利活動
生ごみ堆肥化事業(事業8年目) 担当 恒川

平成21年3月から相馬第3地区萩原会長以下の皆さん熱心な働きかけのお陰で同地区231世帯の生ごみ回収が始まりました。

・世帯数と回収量 年度末現在1,307世帯、年間回収量は82tでした。

・視察 本年度視察団体数8(累計180団体)、人数121人(累計1,828人)となりました。

・その他 ボカシ作り、生ごみ回収参加への呼びかけなど、色々な活動が会員の皆様のご協力によりまして、順調に進みました。

水質浄化活動

・受託事業 石岡市から受託：生活排水浄化モデル事業(東の辻池および上谷原池)6月より10月までの第1日曜日実行(団子と活性液の投入)、悪臭の低減、生態系の回復に成果を上げ、下流の池の悪臭も無くなっているとの報告を得ています。

・協力事業 (地球環境・共生ネットワーク、中央区：名橋「日本橋」保存会、千代田区：日本橋川・神田川に清流をよみがえらせる会)

日本橋川浄化の為のEM団

子製造・投入・EM活性液の投入及び糖蜜運搬の協力依頼があり、積極的に協力しています。

・自主活動 とぎ汁活性液を利用して、会員自宅周辺の排水溝などを浄化しています。

・その他 毎月第2および第4火曜日を作業日としてEMだんご作りや堆肥の袋詰めなど会員の皆様のご協力をいただきました。

試験農園活動

継続事業8年目、出来上がり生ごみ堆肥とEM資材を使つての栽培試験

・イチゴ 河内、やましちいちご園、EM特殊活性液と併用、味・香りで成果大

施設整備

平成21年3月、念願であった水洗トイレと上下水道が取手市のご配慮で設置されました。

会報の発行(担当:福留)

14号まで発行。インターネットにも掲載
資料の販売 (管理担当 若林) 活動用資材及びEM関連資材の仕入れ、販売、管理等

収益事業

・各イベント活動にて、ヤーコン茶等の販売、栽培指導等の他、ヤーコン研究会及びヤーコンサミットご飯能に出席

採択された 平成20年度事業計画

方針

事業の進展に伴いそれぞれの分野で、これまでの実績を踏まえ、活動の充実・拡大、活発化、技術面での研究、検討を深める。

また、NPO緑の会の更なる発展を考えるためのプロジェクトチームを設置し、様々な問題点の克服、組織の活性化と拡大発展を目指していきます。

事業計画

A 非営利活動

1 生ごみ堆肥化事業

これまで取手市の管理下で受託していた生ごみ堆肥化事業は、平成21年度から取手市、常総市、守谷市、つくばみらい市の4団体で設立している常総地方広域市町村圏事務組合「常総環境センター」の管理下で受託していくこととなります。

相馬第3地区の参加が始まったことから、今後参加者の拡大が予想されますので、これまで以上の取組が必要となります。

2 水質浄化活動

受託事業

引き続き事業の継続を期待

協力事業 日本橋川浄化活動、要請に応じて対応

自主活動 霞ヶ浦浄化活動

月1〜2回EM団子・活性液の投入、会員による自宅周辺の生活雑排水の浄化活動

だんご作り等 毎月第2、

第4火曜日のPM13:30〜を定例の団子作りまたは堆肥の袋詰作業日に設定。

3、イベント、活動等

調査、研究、各種研修会への積極的な参加、他のグループとの情報交換、普及講演会等、循環型社会実現に向けて積極的に活動を行う。

B 収益事業

ヤーコンの普及活動

本来事業の円滑化とサポートのため、ヤーコン茶、ヤーコン芋の素晴らしさの情報発信を行い、新規販路、取扱品も検討し事業を拡大する。

C「Rプロジェクト」の設置

NPO緑の会の更なる発展を考えるためのプロジェクトチーム(レインボウプランプロジェクト)を設置し、必要に応じて内外の意見を取り入れながら、様々な問題点の克服、組織の活性化と拡大発展を目指していきます。

D 役員改選

一部役員改選が行われ、次の新体制になりました。

理事長：恒川敏江、副理事長：福留一徳、常務理事：若林正子、理事：唐沢光江、恒川芳克、高田和男、石川泰子、監事：額賀義三

NPO地球環境共生ネットワーク 第10回通常総会開催される

NPO地球環境共生ネットワーク第10回通常総会は、3月7日(土)東京都港区の友愛会館で開催されました。

決議された平成21年度事業計画の概要は次の通りです。

重点政策

「資源循環型社会の構築と有機農業の推進」、「河川、湖の浄化」、「EM関連商品の開発と普及」等の発展を期す。

現在800グループ(約15万人)のネットワークを1200グループ(約25万人)に拡大する。

EM資材の「流通の基本ループづくり」を検討する。

「善循環の輪の集い」を山陰(3月)、宮崎(4月)、青森(5月)、福島(6月)、群馬(9月)、香川(10月)、秋田(11月)で開催する。

県内各地でのEM講座及び初級インストラクター養成講座開催の支援をする。

組織作りのモデルとして、群馬・栃木EMネットサポート 鳥取・島根EMネットサポートの2か所を指定する。

本年の「第9回EMサミットin近畿」は「なら百年会館」

で11月22日に開催する。本年はEM技術が見直される好機、一層活発に前進しましょう。

野田病院「健康祭り」に NPO緑の会も参加

恒例の第17回「野田病院健康まつり」が4月29日(水)賑やかに開催されました。



軽食や日用雑貨、無農薬野菜、介護用品の模擬店あり、金本院長他2名の医師による健康に関する講話、専門医師による健康診断や脳波・骨密度の測定、ステージでは演奏やリハビリ体操に踊りなどが多彩に行われました。

NPO緑の会は、EM商品の出店やEM教室(米のとき汁発酵液の作り方)、EMだ



んご作りの実演などで参加しました。楽しく有意義なイベントになりました。



ントにメンバーも大いに楽しんで一日となりました。

編集後記 最近、「葉っぱのフレディ」というアメリカの哲学者レオ・パスカーリア作の絵本を読みました。私たちはどこから来て、どこへ行くのだろうか。生きるとはどういうことだろうか。死とは何だろうか。人は生きていく限りこうした問いを問いつつ、自分の人生を「考える」きっかけになりそうな絵本でした。 K F